

福岡市共働事業提案制度

事業の進捗状況資料(令和3年度)



福岡市共働事業提案制度 平成 29 年度採択事業

FUKUOKA
おさかなレンジャー
～ 海底ごみから博多湾を守れ!～

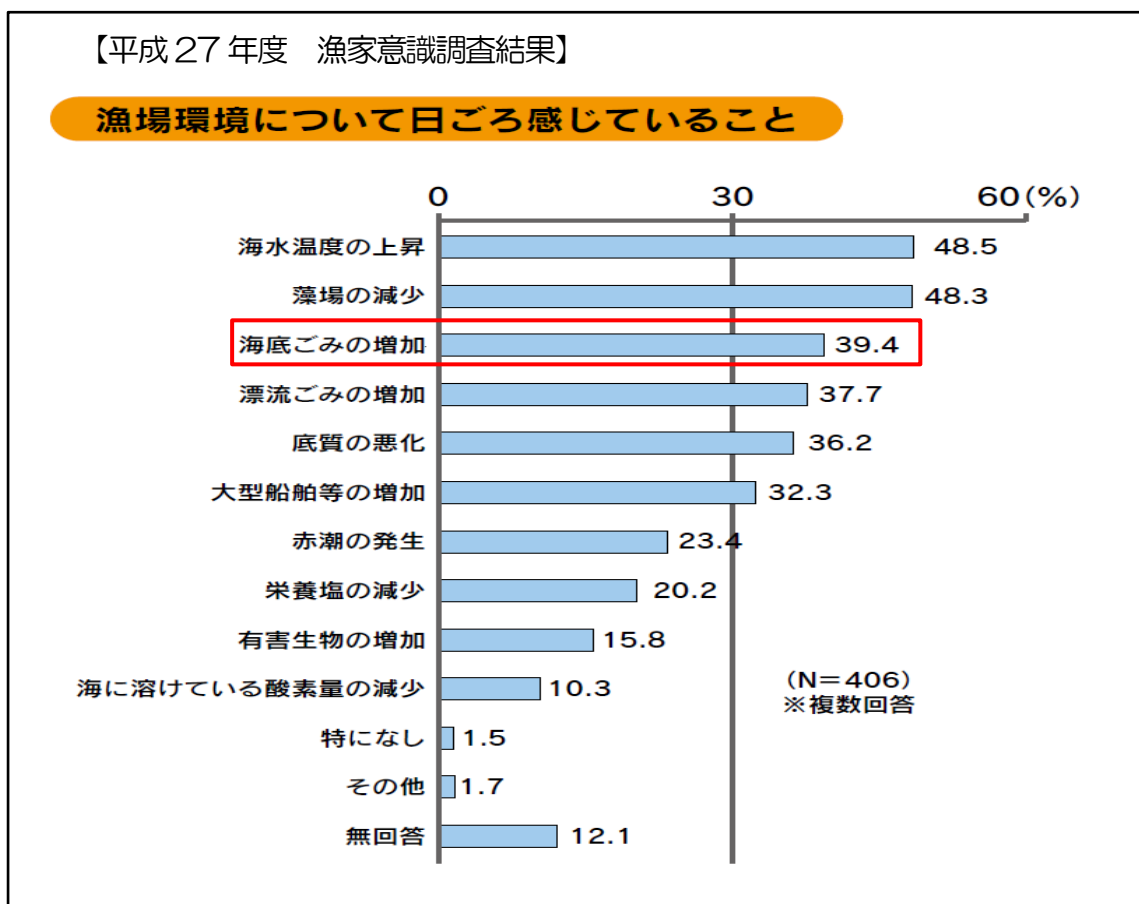
FUKUOKAおさかなレンジャー実行委員会

《一般社団法人ふくおかFUN ・ 福岡市農林水産局水産部水産振興課》

1 共働のきっかけ・必要性

(1)福岡市水産振興課がこの事業に取り組む理由

博多湾は「魚がおいしいまち」として知られる福岡のイメージを支えるとともに、多種多様な漁業が営まれ、新鮮で美味しい魚介類が獲れる豊かな海であるが、市街地から側溝や河川などを通してごみが流入し、一部が海底ごみとなり、漁業の操業や漁場環境に影響を及ぼす要因となっている。水産振興課では、漁業者と連携して海底ごみ回収を行っているものの、平成 27 年度に市内の漁業者を対象に実施した「漁家意識調査」では、多くの漁業者が海底ごみの増加を感じているなど、漁業者と行政だけでは解決が困難な状況であり、市民の協力が必要である。



(2) (一社)ふくおか FUN がこの事業を提案した理由

(一社)ふくおか FUN は、主にダイバーが中心となり、自主事業において市民に向けて博多湾の現状や課題を伝えてきた。今後、博多湾をこれまで以上に豊かな海にしていくために、市民意識の向上に向けた動きに注力していきたいと考えていたが、博多湾の実情を調査するにあたり、単体では漁業者や関係機関との協議及び調整が難しいことからこの事業を提案した。本事業を行うにあたって、(一社)ふくおか FUN は水中調査・撮影の技術を有していること、写真展やイベント等を通じた市民啓発の機会が多いこと、メディアとの関わりも深いことがこの事業に活かせると考えた。さらに、海底ごみ問題を大人にも子どもにも身近な問題として認識してもらえるよう市民啓発方法としてキャラクターの制作・活用をアイデア提案するなど、より効果の高い事業展開に関しての企画提案力があつた。

(3) 共働事業のきっかけ・必要性

これまで、(一社)ふくおか FUN 及び水産振興課では、それぞれが個々に博多湾の海底ごみ削減に向けた活動を行っているが、(一社)ふくおか FUN では漁業者や行政機関等との協議・調整が難しく、水産振興課では海底ごみの「見える化」のための実態把握(水中写真や映像の確保)が困難であった。

このため、日頃から福岡市漁協等との調整を行っている水産振興課と、水中調査・撮影の技術やビーチクリーンアップなどの環境保全・啓発活動について多くの実績があり、メディアとの関わりも深い(一社)ふくおか FUN が共働することで、多様な主体を巻き込んだ効果的な市民啓発を行うことができ、海底ごみ削減の動きを活性化することができる。

2 事業目的

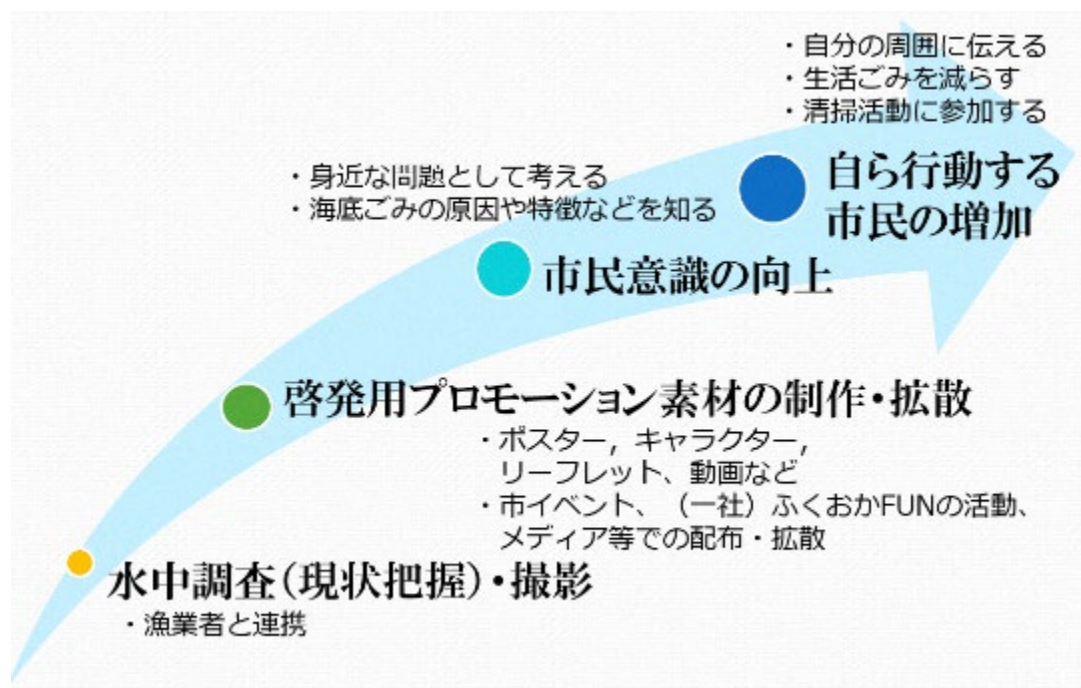
博多湾は「魚がおいしいまち」として知られる福岡のイメージを支えるとともに、多種多様な漁業が営まれ、新鮮で美味しい魚介類が獲れる豊かな海であるが、市街地から側溝や河川などを通してごみが流入し、一部が海底ごみとなり、漁業の操業や漁場環境に影響を及ぼす要因となっている。水産振興課では漁業者と連携して海底ごみ回収を行っているが、回収されるごみの量は減少していないため、海底ごみ削減に向けた新たな取組みとして、海底ごみやごみそのものの発生を抑制するリデュースについての市民意識を高め、陸域から博多湾に流入するごみを減らし、漁場環境保全の観点から福岡の豊かな海を守る。

3 事業目標

【活動目標】

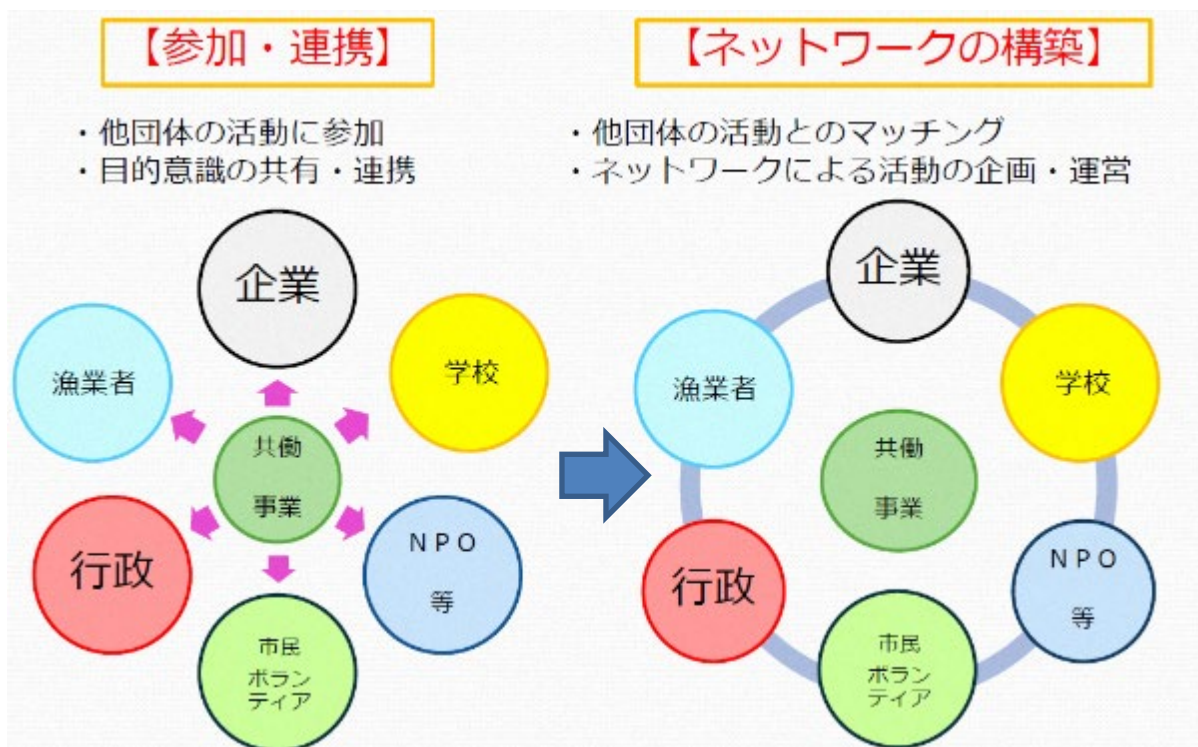
① 博多湾の海底ごみの「見える化」

- ・博多湾内の水中調査・撮影を実施するとともに、海底ごみの分布状況や主なごみの種類等を把握し、啓発用プロモーション素材を制作する。
- ・制作したプロモーション素材を活用し、市や(一社)ふくおか FUN、他団体のイベントなどの様々な機会を捉え、効果的な広報・啓発を行う。



②他団体との連携

- ・他団体が実施する環境活動等に参加し、団体同士の繋がりを深める。
- ・NPO・行政・漁業者等多様な主体による海底ごみ削減のネットワーク構築を目指す。

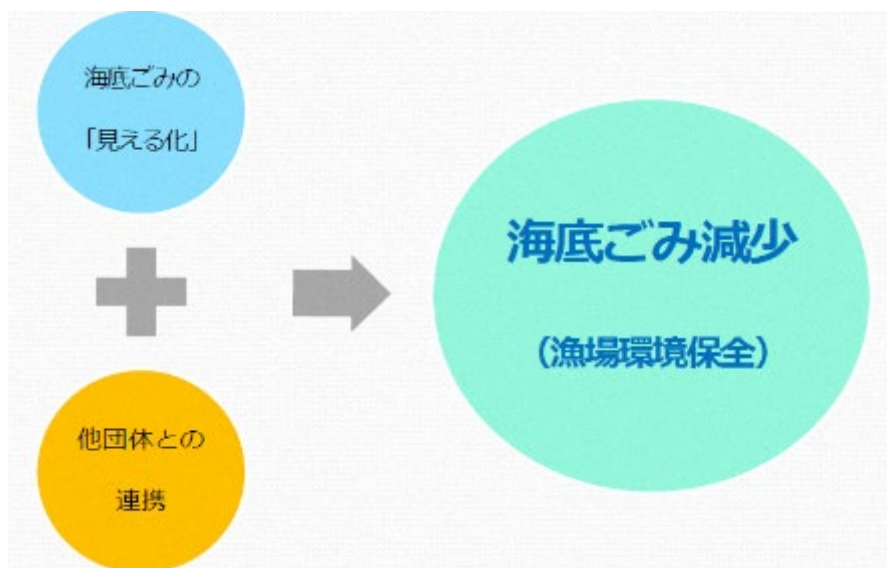


【成果指標】

成果指標	目標値
海底ごみについての市民意識	向上する
リデュースについての市民意識	向上する
漁場環境に関する漁業者意識 (海底ごみの増加を感じる漁業者の割合)	減少する

【最終目標】

博多湾の海底ごみや、リデュースについての市民意識が高まり、陸域から博多湾に流入するごみが減ること
で、漁場環境が保全され、新鮮でおいしい魚介類が獲れる豊かな博多湾がより豊かになり、福岡市の水産業振
興に寄与する。



4 事業内容

令和3年度については、新型コロナウイルスの影響により対面での活動の実施が困難な面があったものの、WEB を活用したり、密を回避した活動に転換したりする等、可能な限りの対策を行い活動した。2月には、本事業の集大成として、「こども海ごみフォーラム 2022」と題したイベントを実施。新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、漁業者や、魚の生態に詳しい中学生を交えたトークショーやクイズ大会、会場一体型のトークセッションを行った。このイベントには将来を担う小中学生とその保護者約 60 名が参加し、高い満足度を得て、成功を収めた。

1. 博多湾の海底ごみの「見える化」

(1) 啓発用プロモーション素材の拡散

令和3年度は、過年度に作成した、リーフレット、ポスター、クリアファイルを、機会を捉え拡散した。また、最終年度であることから、本事業における活動のまとめと、博多湾の豊かさや海底ごみの問題について伝える物語が一体となった児童向けの啓発本(絵本)を作成し、市内小学校、公民館等に配布した。

そのほかの啓発活動全般では、平成 30 年度にキャラクター化した「FUKUOKAおさかなレンジャー」を随所に活用し、大人にも子どもにもより身近な問題として捉えてもらえるよう工夫した。また、(一社)ふくおかFUNの自主事業においても海ごみ削減啓発のための動きに注力し、学校等での授業や市民向けの体験型活動、メディアへの出演、映像提供等を通じて、博多湾の現状を広く知ってもらうための機会を創出した。

●実施期間: 令和3年4月～令和4年3月

●啓発素材の拡散・新規啓発素材の進捗状況

・市役所庁舎内やマリンレジャー関係の施設、教育機関、博多湾流域自治体等、リーフレットを約 450 部、ポスターを約 30 部、クリアファイルを約 310 部、啓発本を約 400 部配布した。

●事業実施期間全体をとおした啓発人数、啓発素材の配布枚数まとめ

□博多湾海底ごみ問題の啓発人数	延べ約 7,000 人
□FUKUOKA おさかなレンジャー啓発素材の拡散・配布数	
ーリーフレット	約 8,000 枚
ー動画	YouTube「福岡チャンネル」にて公開中
#1「豊かな福岡の海を育む博多湾」	視聴回数: 約 2,200 回
#2「海底ごみ問題 このままでは福岡の海が危ない！」	視聴回数: 約 1,200 回
#3「福岡の海を救おう」	視聴回数: 約 900 回
ーポスター	約 400 枚
ークリアファイル	約 1,400 枚
ーエコバッグ	約 400 枚
ー冊子	約 400 部

○平成 30 年度制作 啓発素材

・キャラクター・ロゴ



・ポスター(A1)

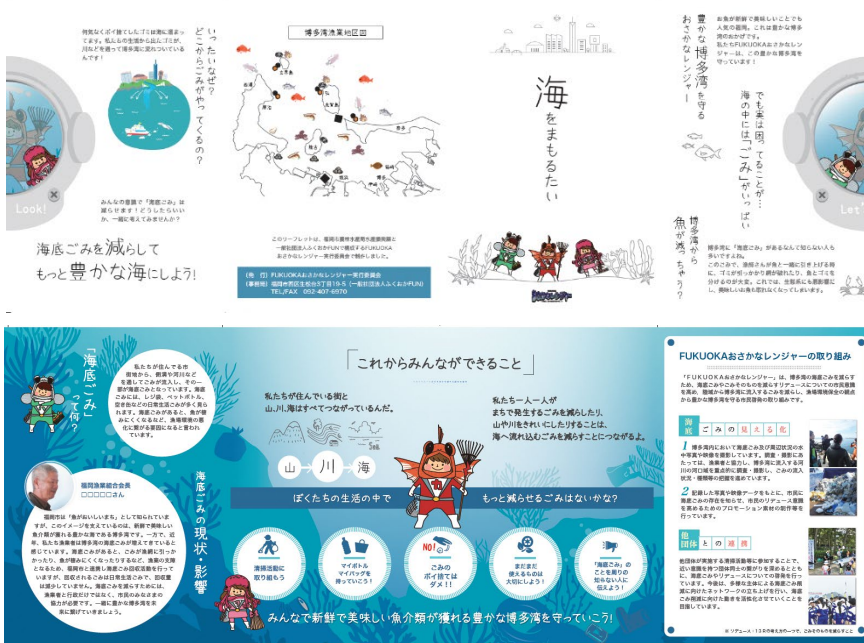


・動画(YouTube「福岡チャンネル」にて公開した)

- #1「豊かな福岡の海を育む博多湾」
- #2「海底ごみ問題 このままでは福岡の海が危ない！」
- #3「福岡の海を救おう」



・リーフレット(A5 観音開)



○令和元年度制作 啓発素材

・のぼり



・クリアファイル(A4)



・Yahoo「Gyoppy！」WEB記事

行政、ダイバー、漁業者。共通する想い

「FUKUOKAおさかなレンジャー」は行政とダイバーによる非営利事業ですが、漁業者の協力のもと事業も進めています。

行政とダイバー、ダイバーと漁業者には、それぞれ大きな結びつきはありませんでした。特に、共に遊んで生物を観察・撮影するダイバーと、漁をする漁業者は、それぞれ異なる目的をもつて関わっている存在ですが、海との関わりが深まれば、互いに支え合える関係が生まれると信じています。

ですが、「博多湾を守りたい」という共通する思いのもと、三者がそれぞれの役割を担いながら事業に取り組んでいます。



具体的には、博多湾を監視し取り、海ごみによる変化を実感している漁業者の協力のもと、日頃から漁業者との連絡・調整を行っている行政と、水中調査・撮影の

・エコバッグ

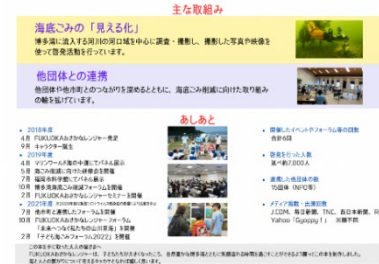
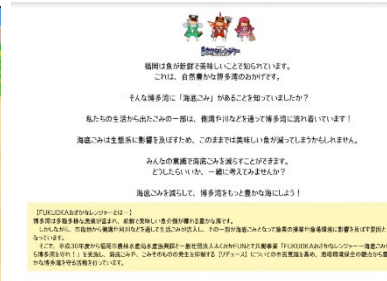
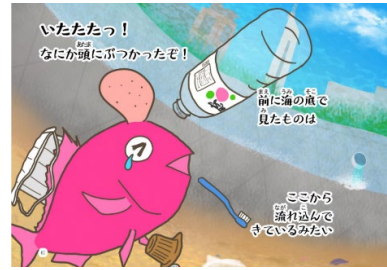


○令和3年度制作 啓発素材

・啓発パネル(A1)



・啓発絵本・活動まとめ年表(B6)



2. 他団体との連携

他団体が実施する清掃活動等に参加することで、近い意識を持つ団体同士のつながりを深めるとともに、海底ごみ・リデュースに対する啓発を行った。

また、7月には博多湾に流入する河川(御笠川・那珂川)、10月には博多湾流域市町の行政職員を対象に、フォーラムを開催した。

そして、他団体が実施するイベントや、他自治体の清掃団体が主催する清掃活動等に積極的に参加した。

- 実施期間: 令和3年4月～令和4年2月
- 実施回数: 計 16 回(自主開催: 計 3 回、他団体の活動への参加: 計 13 回)
- 参加活動・啓発方法・啓発人数等 ※【 】内は連携団体

一自主開催

- ①7/1(金) FUKUOKA おさかなレンジャーフォーラム～海底ごみから博多湾を守れ～【福岡市漁協伊崎支所、流域市町4市】

啓発人数 22 名

博多湾流域市町(御笠川、那珂川流域)を対象にフォーラムを開催、意見交換を行った。



- ②10/26(火) FUKUOKA おさかなレンジャーフォーラム～未来へつなぐ私たちの山川里海～【太宰府水から川る会、水と緑の楽校、流域市町7市、福岡県等】

啓発人数 21 名

博多湾流域市町を対象にフォーラムを開催、意見交換を行った。

- ③2/27(日)FUKUOKA おさかなレンジャー「こども海ごみフォーラム 2022」

啓発人数 60 名

小中学生とその保護者を対象にイベントを実施。博多湾で20年以上漁業を営む漁業者や、日本さかな検定1級に史上最年少で合格した中学生おさかな博士を交えたトークショーやクイズ大会、会場と一体となって博多湾の海底ごみについて考えるトークセッションを行った。



―他団体との連携及び活動への参加

①10/30(土) アマモ場作り活動参加【一般社団法人ふくおか FUN】

啓発人数 25名

共働事業先である一般社団法人ふくおかFUNが主催する、小戸公園での「海を元気にする海草」アマモ場づくりの活動と連携し、参加者に向けて海底ごみ削減の啓発活動を行った。

②11/1(月)～11/30(火) 農林水産まつり(オンライン開催)【農林水産まつり実行委員会】

(オンライン閲覧者別途)

FUKUOKA おさかなレンジャーのバナーを当該ページに表示し、閲覧者に対し、啓発を行った。

③11/6(土) 太宰府市水から川る会清掃活動参加

啓発人数 33名

太宰府市の団体が実施する清掃活動に参加し、海底ごみ削減の啓発活動を行った。

④11/6(土)、7(日) 福岡 52 万石 秋の陣【福岡城 52 万石実行委員会】

啓発人数 計 100名

イベントステージ上で、来場者に向けて海底ごみ削減の啓発活動を行い、その後会場内でリーフレットの配布を行った。

⑤11/14(日) 第7回海辺の教室 in 野北海岸【九州大学うみつなぎふくおか】

啓発人数 70名

九州大学等と一緒に清掃活動に参加。海底ごみ削減の啓発を行った。

⑥11/15(月) #あしもとから【ふくおかFUN】

啓発人数 7名

共働事業先である一般社団法人ふくおかFUNが主催する清掃活動に参加し、海底ごみ削減の啓発活動を行った。

⑦11/21(日) クリーン up うみ川【クリーン up うみ川実行委員会】

啓発人数 40名

志免町の団体が実施する清掃活動に参加し、海底ごみ削減の啓発活動を行った。

⑧11/23(火) FUNクリーンアップデー【一般社団法人ふくおか FUN】

啓発人数 115名

共働事業先である一般社団法人ふくおかFUNが主催する、ダイバーと市民とが行う海中海岸同時清掃活動と連携し、参加者に向けて海底ごみ削減の啓発活動を行った。

⑨11/27(土) 森と海の再生交流事業【森と海の再生交流事業実行委員会】

啓発人数 110名

本部テントにてブースを出展。参加者に対し、クリアファイル、リーフレットを配布。

⑩12/5(日) 室見川水系一斉清掃【室見川水系一斉清掃実行委員会】

啓発人数 371名

開会式で参加者に向けて海底ごみ問題に関する啓発を実施。

⑪12/10(金)～1/10(月) 環境フェスティバル 2021【環境フェスティバルふくおか実行委員会】

啓発人数 320 名(オンライン閲覧者別途)

12/11(土)、12(日)は会場展示を行い、啓発パネルを展示し、リーフレットを配架。それ以外の期間は WEB 上で海底ごみ削減の啓発動画を配信した。

⑫1/17(月)～1/21(金)市役所1階多目的スペース展示【福岡市財政局】

市役所1階多目的スペースにてブースを出展。豊かな博多湾の様子を伝えるとともに、海底ごみ問題についても啓発する動画を常時上映した。

⑬2/19(土)シロウオ産卵場造成プロジェクト【福岡大学、水と緑の楽校】

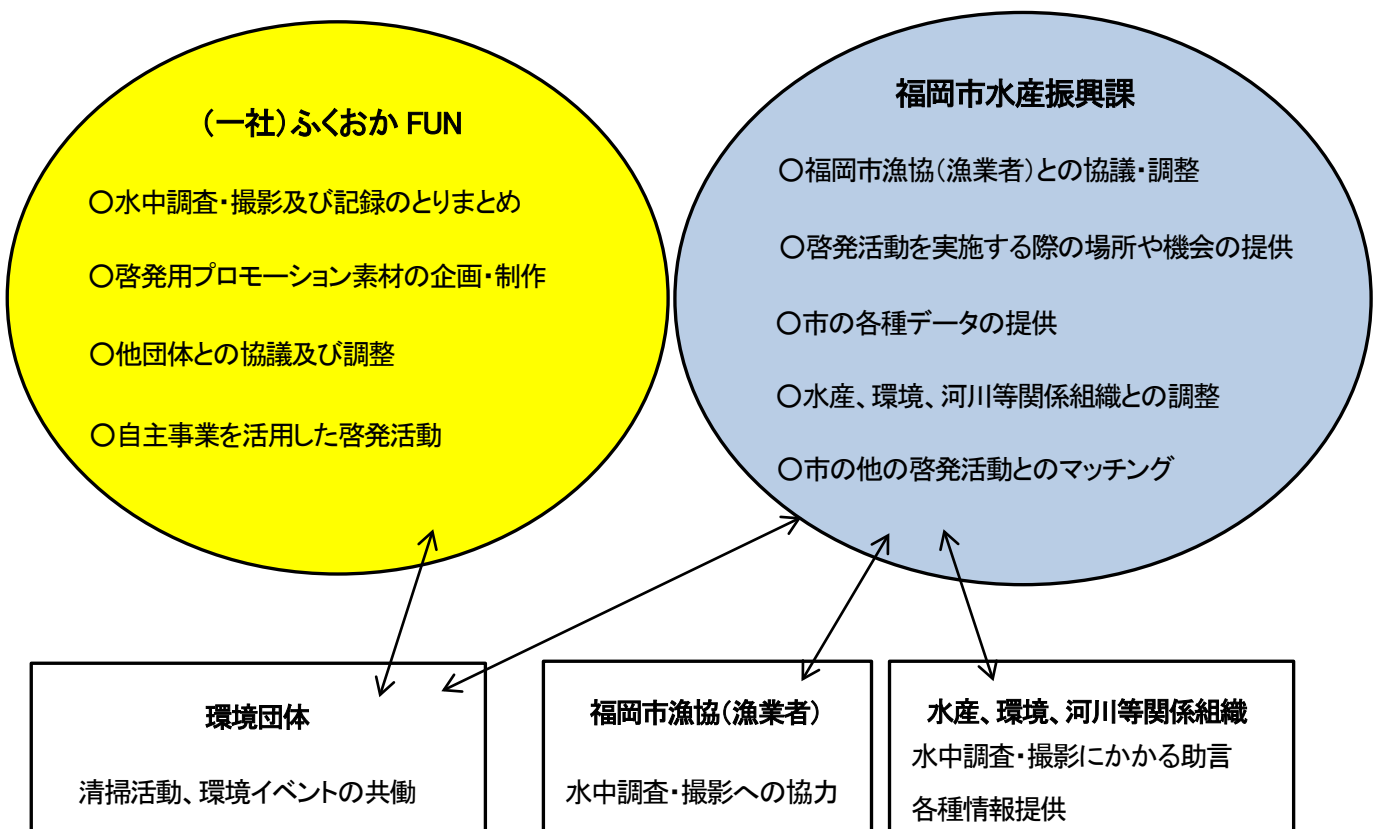
啓発人数 40 名

シロウオ産卵場造成活動に参加。参加者に向けて海底ごみ問題に関する啓発を実施した。

※上記のほか、期間中に(一社)ふくおかFUNの自主事業におけるイベント、講演、授業においても博多湾の海底ごみ問題やリデュースについての啓発やアンケートを実施。

(実施回数:合計 23 回、啓発対象人数:約 2,600 名)

5 (一社)ふくおか FUN と福岡市水産振興課の役割分担



6 参加者の声・担当者の声

(1) 参加者の声

他団体と連携した活動を行った際に以下のような感想が寄せられた。

「FUKUOKA おさかなレンジャーフォーラム～海底ごみから博多湾を守れ～」についてのアンケート回答(一部抜粋)

① 満足度理由(参加者全員から大変満足もしくは満足の回答をいただいた)

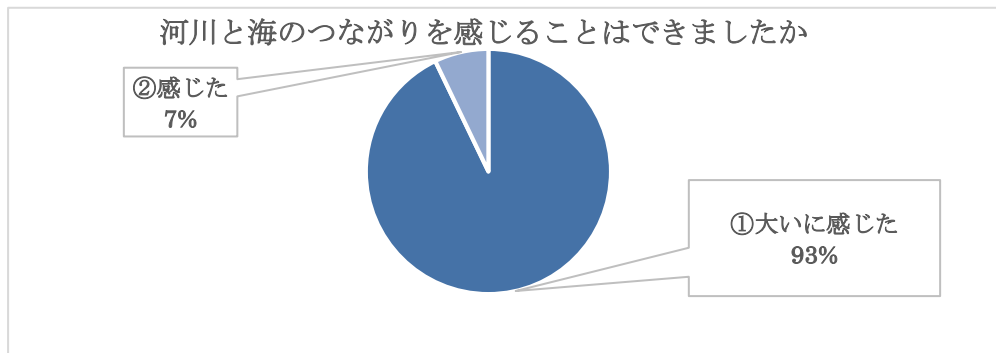
- ・博多湾のごみの現状には驚きました。川と海との関りを考えないといけないと思った。
- ・他の自治体や団体の方とつながりをもてたこと。また、川と海がつながっていることを改めて認識できたこと。
- ・みんなで一緒に考え、意見交換ができ、他都市の職員たちと親近感が持てた。

② 博多湾のイメージ

- ・魚がおいしい
- ・外洋でないことを改めて知りました。いままでそこまで海底に“日本”のごみがあるとは認識していなかった。

③ フィールドワーク

- ・川が住民の方に身近な場所だと感じました。海まで意識してもらえたらいいなと思った。
- ・地元の川を将来の世代にきれいなままつなげていきたい。
- ・他自治体での取り組みや漁業関係者の方のお話を聞いて、啓発のアプローチの参考になった。
- ・フィールドワーク中の説明から、気候や水量等の状態でごみの漂着状況も異なるということを初めて知った。



「FUKUOKA おさかなレンジャーフォーラム～未来へつなぐ私たちの山川里海～」についてのアンケート回答(一部抜粋)

① 満足度理由

- ・海ごみの現状が分かり、マイクロプラスチックが砂浜に多くあつまっていることが分かり、とてもためになった。
- ・皆さんの環境に対する気持ちが感じられた。

② 博多湾のイメージ

- ・自分たちの業務とは関係性の薄いところ。
- ・美味しいお魚がいっぱい。

③ 基調講演

- ・環境保護のため、公共と民間が協力し合うことの重要性に改めて気づいた。
- ・海のごみは海外のごみが多いイメージがあったが、国内のごみが多く、川からのごみが大半を占めているということに驚いた。

「こども海ごみフォーラム 2022」についてのアンケート(一部抜粋)

① 満足度理由(参加者全員から大変満足もしくは満足の回答をいただいた)

- ・同じ福岡で同世代の子の言葉で伝えられることは大人たちから伝えるものより何倍も価値があったと思う。
- ・会場全体で参加でき、みんなで考えることができた。
- ・親子で博多湾の話をするきっかけができた。
- ・とてもわかりやすかったので、子どもたちも意識づけができたと思う。

② その他意見

- ・みんなと共有できたらいいなと思った。
- ・漁師さんが海ごみの清掃をしているのを初めて知りました。未来のために海のためにできることを話し合っていけたらと思った。是非またこのような機会を開いてほしい。
- ・海の問題に限らず、発信する力を育てることは、今後役に立ってくると思うので、是非、継続してほしい。
- ・子ども達の意見、思いを聞いて良かった。素晴らしいと思った。大人も負けられないと感じた。

※3年間の活動における成果指標の推移

成果指標	目標値	達成度合
海底ごみについての市民意識	向上する	活動に参加した市民の意識が向上している
リデュースについての市民意識	向上する	活動に参加した市民の意識が向上している
漁場環境に関する漁業者意識 (海底ごみの増加を感じる漁業者の割合)	減少する	減少している

(参考: 市政アンケート結果)

■回答数(人)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
568	553	540	574

■アンケート結果(%)

- 質問①: レジ袋やペットボトルなどの日常生活ごみが、ポイ捨てなどにより道路の側溝や河川などを通して博多湾に流入し、海底ごみとなっていることを知っていたか。

	平成30年度 (A)	令和元年度 (B)	令和2年度 (C)	令和3年度 (D)	上昇率			
					(B-A)	(C-B)	(D-C)	(D-A)
知っていた	55.1	69.3	69.6	75.8	14.2	0.3	6.2	20.7
知らなかった	43.1	30.2	30.2	23.3	▲12.9	-	▲6.9	▲19.8

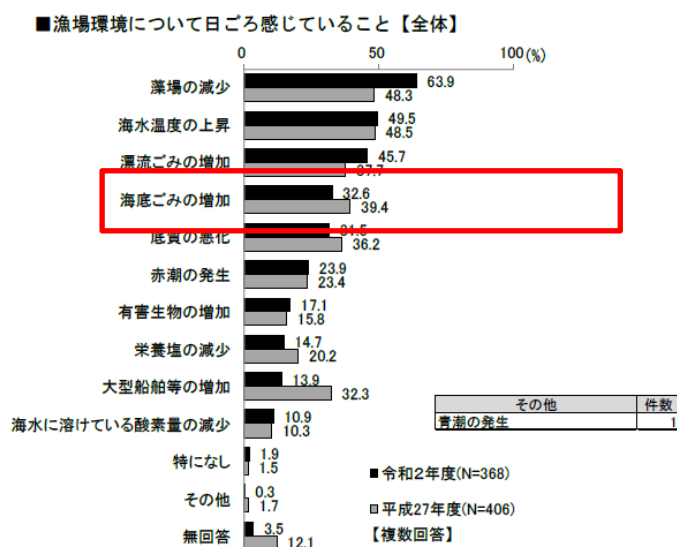
- 質問②: 漁業者が博多湾の海底ごみを回収していることを知っていたか。

	平成30年度 (A)	令和元年度 (B)	令和2年度 (C)	令和3年度 (D)	上昇率			
					(B-A)	(C-B)	(D-C)	(D-A)
知っていた	23.6	25.1	22.8	25.8	1.5	▲2.3	3.0	2.2
知らなかった	75.0	74.5	77.0	73.3	▲0.5	2.5	▲3.7	▲1.7

- 質問③: ごみを減らすために、普段から行っていることはあるか。

	平成30年度 (A)	令和元年度 (B)	令和2年度 (C)	令和3年度 (D)	上昇率			
					(B-A)	(C-B)	(D-C)	(D-A)
ある	82.2	85.7	90.6	89.2	3.5	4.9	▲1.4	7.0
ない	17.3	14.1	9.3	9.8	▲3.2	▲4.8	0.5	▲7.5

(参考:漁家意識調査)



(2)担当者の声

①(一社)ふくおか FUN

- ・事業実施当初は、行政と非営利組織という立場や価値観の違いに戸惑い、意見が対立することはあったが、「博多湾の海底ごみを減らし、豊かな海を守りたい」という同じ想いと目的をもつ者同士、お互いを尊重しながらも意見を出し合い、事業をより良くするための協力体制を築くことができた。
- ・国内や海外において、海洋ごみ問題を取り上げる話題は年々増え続けており、本事業の実施中にも、海底ごみの存在について知る市民が増えてきたことを実感できた。こうした市民意識の高まりと連動させながら、絶やすことなく今後も活動を継続していく必要がある。
- ・啓発や連携の対象範囲が「点」から「面」へと変化し、福岡市内に留まらず、近隣市町や他市町の関係者や連携団体が増えてきていると実感できている。今後は、一人でも多くの人を巻き込みながら、持続可能な活動を確立していく必要がある。

③ 福岡市水産振興課

- ・コロナ禍のなかで、啓発活動に制限はあったが、対策を徹底し、イベントを開催する等、可能な範囲で着実に活動ができた。
- ・フォーラムの参加者からは満足度の高い声をいただき、河川が博多湾とつながっており、河川を通じて生活ごみが博多湾に流入するということを認識してもらえた。
- ・海底ごみの啓発活動を行った先で、自身の生活と海との繋がりを意識していない方が多くいるという印象もあった。しかしながら、環境に対する意識は高い方が多いため、情報をうまく拡散し、海底ごみ削減につなげていく必要がある。
- ・世界的にもマイクロプラスチックなどの海洋プラスチック問題がクローズアップされていることから、これを契機と捉え、海底ごみやリデュースに関する市民啓発を図り、漁場環境保全の観点から、博多湾を守っていく必要がある。

7 事業終了後の展開

事業終了後は、一般社団法人ふくおか FUNにて本事業を引き継ぎ、水産振興の観点だけでなく、生物多様性や脱炭素、様々な生態系サービスにおいて海底ごみ削減の重要性を啓発する。

また本事業中では海底ごみの見える化や他団体との連携、意識醸成を軸に活動したが、今後は海底ごみ回収の活動をふくおか FUN の自主事業として行い、水産振興課は、今後も共働事業を通して繋がった団体等と情報共有等含めた連携を行い、海底ごみ削減に向けて継続して取り組むことで、課題解決・発生抑制両方の側面から豊かな博多湾を目指す。